

平成27年度(平成26年度対象)

教育委員会の点検・評価報告書

平成27年8月

養父市教育委員会

目 次

はじめに	P1
教育委員会の点検・評価について	P2～P7
1 趣旨	
2 対象	
3 点検・評価の方法	
4 学識経験者の活用	
5 養父市教育委員会評価実施要綱	
養父市教育委員会の平成 27 年度（平成 26 年度対象）点検・評価について （総括意見）	P8～P10
平成 27 年度（平成 26 年度対象）養父市教育委員会評価調書	P11～P36
① 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する	
② 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える	
③ 「確かな学力」と主体的に学ぶ態度を培う	
④ 命と人権を大切にする「心の教育」を推進する	
⑤ 豊かな感性とたくましい身体を育てる	
⑥ 学校・家庭・地域の連携のもと、魅力ある学校づくりを進める	
⑦ 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める	
⑧ 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る	
⑨ 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎 を育む	
⑩ 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める	
⑪ 保育所・幼児センター・幼稚園の機能を充実させ、子育て支援を進める	
⑫ 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める	
⑬ ふるさとの歴史や文化遺産を継承し、その保存と活用を進める	
⑭ 家庭・地域・学校が連携して、豊かな心を育む青少年の健全育成を進める	
⑮ 「元気な養父市～ひとり1スポーツで健康づくり～」を進める	

はじめに

養父市教育委員会は、第2次総合計画の施策などに基づき「平成26年度 教育推進の重点」において、幼児教育4項目、学校教育5項目、社会教育4項目の重点目標を掲げ、保護者や地域の方々のご理解とご支援をいただきながら、「明日を拓くこころ豊かなひとづくり」の諸施策を推進しました。

幼児教育では、「生きる力」の基礎を育むため、異年齢交流による豊かな人間関係の構築や運動遊びプログラムによる体力づくりなどを推進しました。また、子どもを安心して育てられる環境づくりとして「認定こども園」への移行に努めました。さらに、幼児教育専門指導員により職員の実践的指導力を高めるなど質の向上を図るとともに、特別な支援が必要な子供に対し適切な支援を行うため、保健師、臨床心理士などを配置し個に応じた支援体制の整備を行いました。

学校教育では、きめ細かな指導により「確かな学力」の定着を図るとともに、氷ノ山登山等を行う「やぶっ子夢プラン」や池田草庵をはじめとする先人に学ぶ教育を推進しました。さらに、第2、第4水曜日を「そうあんくんの日」と定め、自ら課題を見つけ、自主的に学ぶ意欲を、家庭の協力を得ながら育てる取組を始めました。いじめや不登校、児童虐待に迅速かつ適切に対応するため、「いじめ防止基本方針」の策定や学校カウンセラーの配置等による体制の充実を図るとともに、道徳教育の充実や読書の時間の確保に努め、「心の教育」を推進しました。

教育環境の整備では、統合学校給食センターが、平成26年12月22日に完成し、平成27年1月9日から市内小中学校への給食の提供を開始しました。

社会教育の分野では、市民が生きがいをもって生涯学習を推進するため、さまざまな学びの機会を提供し、市民の自発的な学習活動を支援しました。また、養父市らしい歴史と文化に根ざしたまちづくりを推進するため、ふるさとの先人に学ぶ「こども囁鳴フォーラム」を開催するとともに、国・県指定文化財の保存・修復に努めました。さらに、「正しいラジオ体操」の普及と推進を図るなど、市民が生涯にわたってそれぞれの年齢や体力・目的などに応じて「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努めました。

「平成27年度養父市教育委員会の点検・評価」は、平成26年度中に養父市教育委員会が取り組んだ主な施策・事業について、点検・評価を行ったものです。この点検・評価の実施と公表により、広く市民の皆さまに教育委員会の活動状況や教育施策の実施状況をお知らせするとともに、より効果的な教育行政の推進に努める所存です。

養父市教育委員会

教育委員会の点検・評価について

養父市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、平成26年度事務事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表するものです。

※参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）（平成19年6月一部改正公布、平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 趣旨

教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、課題や対応方法を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するものです。

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていきます。

2 対象

点検・評価は、養父市教育委員会の「平成26年度教育推進の重点」の重点課題である教育総務2項目、学校教育5項目、幼児教育4項目、社会教育4項目及び教育委員会の活動状況、学校教育環境整備について（下記の15項目）対象といたしました。

（教育総務）

（1） 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する

- (2) 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える

(学校教育)

- (1) 「確かな学力」と主体的に学ぶ態度を培う
- (2) 命と人権を大切にする「心の教育」を推進する
- (3) 豊かな感性とたくましい身体を育てる
- (4) 学校・家庭・地域の連携のもと、魅力ある学校づくりを進める
- (5) 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める

(幼児教育)

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る
- (2) 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎を育む
- (3) 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める
- (4) 保育所・幼児センター・幼稚園の機能を充実させ、子育て支援を進める。

(社会教育)

- (1) 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める
- (2) ふるさとの歴史や文化遺産を継承し、その保存と活用を進める
- (3) 家庭・地域・学校が連携して、心豊かな心を育む青少年の健全育成を進める
- (4) 「元気な養父市～ひとり1スポーツで健康づくり～」を進める

3 点検・評価の方法

(1) 評価項目

上記の重点課題ごとの具体的な方策について評価項目にしています。

(2) 取組内容

項目ごとに実施した主な取組み内容を示しています。

(3) 達成状況

A 優れている、B 良い、C おおむね良好、D 要改善、E 未実施 の5段階で評価しています。

(4) 担当課評価・改善の方策

担当課の評価・改善方策を示しています。

(5) 自己点検・評価委員会評価

自己点検・評価委員会で行った事務事業の点検・評価、達成状況の評価を示しています。

(6) 外部評価委員会評価

外部評価委員会で行った検証・評価の意見及び達成状況の評価を示しています。

4 学識経験者の活用

点検及び評価を行うにあたっては、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることにより、客観性を確保するものであり、養父市教育委員会評価実施要綱に基づき、5名の委員の方々から様々なご意見とご指導をいただきました。

(1) 養父市教育委員会外部評価委員会委員

役職名	氏名
委員長	植木拓氏
副委員長	桐村侑昇
委員	前田日出子
委員	村上進一
委員	橋本裕子

(2) 養父市教育委員会外部評価委員会開催日

- ・ 第1回 平成27年7月 7日
- ・ 第2回 平成27年7月15日
- ・ 第3回 平成27年7月28日

5 養父市教育委員会評価実施要綱

平成 20 年 11 月 27 日

教育委員会告示第 4 号

(設置)

第 1 条 養父市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、その権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検及び評価について、外部の有識者による検証と意見を求め、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、養父市教育委員会自己点検・評価委員会（以下「自己点検・評価委員会」という。）と養父市教育委員会外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）において評価を実施する。

(自己点検・評価委員会の所掌事務)

第 2 条 自己点検・評価委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が策定した「教育推進の重点」に掲げる事項について、事務・事業の自己点検及び評価を行う。
- (2) 自己点検・評価委員会で取りまとめた報告書について、外部評価委員会から意見を聴取するものとする。
- (3) その他自己点検・評価委員会が必要と認める事項

(自己点検・評価委員会の組織)

第 3 条 自己点検・評価委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育委員会委員
- (2) 教育次長
- (3) 学校教育課長
- (4) こども育成課長
- (5) 社会教育課長
- (6) 生涯スポーツセンター所長
- (7) 学校給食センター所長
- (8) 小中学校代表校長
- (9) 教育長が必要と認めた者

(自己点検・評価委員会の委員長及び副委員長)

第 4 条 自己点検・評価委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は教育委員長をもって充て、副委員長は教育次長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(自己点検・評価委員会の会議)

第5条 自己点検・評価委員会の会議は委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(外部評価委員会の組織)

第6条 外部評価委員会は、5名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 地域の教育関係者
- (3) 地域の保護者
- (4) PTA役員
- (5) その他教育委員会が必要と認めた者

(外部評価委員会の任務)

第7条 外部評価委員会は、次に掲げる事項について検証、評価を行う。

- (1) 教育委員会に関すること。
- (2) 教育施策に関すること。
- (3) 教育施設に関すること。

(外部評価委員会の委員長及び副委員長)

第8条 外部評価委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(外部評価委員会の会議)

第9条 外部評価委員会の会議は委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(外部評価委員の任期)

第10条 外部評価委員の任期は原則として2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(外部評価委員会の評価報告書)

第11条 外部評価委員会は評価報告書を作成し、教育委員会に提出するものとする。

(報告と公表)

第12条 教育委員会は、外部評価委員会が取りまとめた評価報告書を、議会に提出するとともにホームページ等で公表する。

(庶務)

第13条 自己点検・評価委員会及び外部評価委員会の庶務は、教育委員会事務局において行う。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 第5条及び第9条の規定にかかわらず、この告示の施行の日以降最初に開かれる会議は教育長が招集する。

附 則 (平成24年教委告示第9号)

この告示は、平成24年4月1日から施行する。

養父市教育委員会の平成 27 年度（平成 26 年度対象）点検・評価について

総括

前期より再任の委員 2 名、新たな委員 3 名の構成により審議を行いました。毎年申し上げるとおり、直接目にしていない部分の多い項目に関して評価する難しさに悩みながらも、各委員、日頃の思い、考えを出し合い有意義な時間となりました。

ただ、スタートが例年より遅く時間的な制約が例年以上に厳しく、更に議論を深めるためにも今少し時間的ゆとりをもった計画が必要と思われました。具体的には委員会の運営に関すること（会議の進め方、現場視察などの企画）を事前に協議する場があっても良いのではないかと感じました。

全体的にはいわゆる道徳に関する項目の評価が低いことが気になります。いうまでもなく社会の構成員として正しい行為をなすために守らなければならない規範です。このことに関する取組の更なる充実が求められます。

また、今回特に感じたのは評価についてです。評価にあたり A～E までの内容がありますが、議論し評価を決定する中で少々分かりにくさを感じています。（具体的には B 良いと C おおむね良好の違い等）他の自治体に比べても取組内容も評価項目も詳細でとても素晴らしいので、少し曖昧な部分をより評価しやすい形となるよう、次回までに検討していただきたいと思います。

I 教育総務の分野について

- ・教育委員会、教育委員の活動を広報等で分かりやすく情報発信されています。
- ・限られた予算の中で大変なところはありますが引き続き、子どもたちの安全安心に配慮した整備を進めてください。

II 学校教育課の分野について

- ・各委員にとっても最も身近で議論も活発な分野です。子どものためにきめ細かい取組をしてくださっていることに感謝しております。増加する個別対応ケースについてもこれまで以上に外部を含む異職種連携、ネットワークも充実してきているように感じました。
- ・先人教育についても充実してきているので、内容のさらなる深まりを期待します。
- ・大きな事故や問題（いじめや SNS の問題を含め）の背後にはかなりの数の予兆のようなものがあるといえます。今のきめ細かい取組を継続していただき小さな予兆の芽を見逃さないようにしていただきたいと思います。
- ・総括の部分でもふれましたが、道徳教育の部分については行動の規範という視点で考えれば教育推進の重点全てにかかわる事柄であると思います。
- ・時間的な制約もあるかと思いますが、小中連携同様、旧町単位の枠にとらわれ

ない小小連携のような取組も増やせればいいと思います。また地域行事への参加については中学生になるにつれて機会が減っている傾向になっているのも課題の一つかと思います。

Ⅲ こども育成課の分野について

- ・学校教育同様、成長に配慮しながら次につなげる異職種連携、取組が進んでいて良いと思います。
- ・新しくなった給食センターとの連携による食物アレルギーなどに対するきめ細かな対応は感心しました。
- ・認定こども園の位置づけなども話をうかがい理解することができました。

Ⅳ 社会教育課・生涯スポーツセンターの分野について

- ・スポーツ振興については旧町単位にとらわれない様々な大会が実施されています。イベントの際の交流・観光課や商工会との連携についても徐々に進んでいますが、まだ課題があるようです。（芸術文化の分野における社会教育と市民生活部の公民館の連携についても同様）
- ・社会教育関連の施設について、運営など大変厳しい状況にあるようですが費用対効果だけで存続を云々するのでなく施設のもつ意味、市の財産という質的な評価も含め慎重に検討していただきたいと思います。

（おわりに）

今回も貴重な機会をいただいたことを、委員一同心より感謝しております。残念ながら今回は、総括のところであげたように委員会の運営、評価の仕方という基本的な部分での問題点があったように思います。

あえて厳しい言い方をさせてもらえば、普段関わってない外部の人間が入るといふ本来の意味目的（開かれた市政、行政と市民の協働）のため、また単なる前例踏襲ややっつけ仕事ようになってしまわないためにも運営の内容について更に慎重な審議や準備が必要ではないかと感じています。

教育の分野においては、子どもも大人も養父市の中だけにかたまらないといったような視点も必要かと思えます。具体的には先人たちの如く、一度は広い世界に出てそこから持ち帰ったものを地元に戻元していくという解釈です。そのきっかけとなるためにも色んな外部の人に入ってもらう、本物に触れてもらうということをもっともっと進めていかないといけないと感じています。

最後になりましたが、委員の一人が、「この委員会に参加して、養父市にどんなものがあるのか初めて分かった。そんなところに積極的に出向きたい」という旨の

発言をされました。見ようとしなかった部分を知り、見るようになる。このことも大変意義深いことだと思います。今後、少しでも多くの方にこういった会議に参加してもらえ、機会が増えることを願っています。

養父市教育委員会外部評価委員会

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課自己評価】
 【教育委員会評価】
 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 印
 学校教育部

1 本年度の教育推進の重点

教育総務

1 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する

- 教育委員会の会議運営
- 開かれた教育委員会
- 教育委員としての活動

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>教育委員会の会議運営</p> <p>1) 定例会議の開催 ・月1回の定例会議を開催し意見交換や審議を行う。 2) 事前協議会の開催 ・本会議の前に事前協議会を開催し会議の円滑化・活性化を図る。 3) 例規の整備 ・規則、要綱の制定及び一部改正や廃止について審議の上議決し、例規の整備と公布を行う。</p>	B	<p>1) 定例会議の開催 ・幼児教育分野・学校教育分野・社会教育分野の諸課題について意見交換や対応を行い養父市の教育推進に取り組んだ。 2) 事前協議会の開催 ・本会議の開始前に協議会を開き、教育委員で事前学習や協議を行いスムーズな会議運営ができた。 3) 例規の整備 ・教育に関する案件や規則等について審議を行い、承認や決定を行った。 ・活発な会議運営が行われている。今後、もスムーズで活発な会議運営を目指す。</p>
2	<p>開かれた教育委員会</p> <p>1) 養父市ホームページの活用 ・養父市のホームページに毎月定例会議委員会の開催のお知らせを掲載する。また、会議録の要旨を公開する。 2) 市広報の活用 ・市広報にも毎月教育委員会のコーナーを設け委員の顔写真や記事に掲載し情報発信に努める。</p>	B	<p>1) 養父市ホームページの活用 ・養父市のホームページにより、会議の開催状況や審議内容について掲載を行った。 2) 市広報の活用 ・市広報に教育委員会コーナーを設けて委員の所感を述べ目に見える教育委員会に努めた。また、教育委員会制度の改正についても掲載するなど、周知に努めた。 ○今後も確かな情報発信に努める。</p>
3	<p>教育委員としての活動</p> <p>1) 各種研修会への参加 ・但馬及び県内の各教育委員会連合会研修会、各種研修大会等に積極的に出席する。 2) 保育所、幼稚園、小学校の訪問 ・多くの幼・保育施設、学校園を訪問し、経営研究会で進言する。 3) 各種行事への積極的な参加 ・市、学校、地域の各種行事に積極的に参加し、市の教育行政の状況を把握する。 4) 視察研修の実施 ・視察研修を実施し、小中一貫教育や児童養育施設の現状について見識を深める。</p>	B	<p>1) 各種研修会等への参加 ・教育委員会連合会が主催する研修会等の機会を捉えて研修を積み、情報収集や教育委員としての資質の向上に努めた。 2) 各幼・保育施設、園、学校への訪問 ・幼・保育施設、学校園訪問の回数と場所を増やした。 3) 各種行事への積極的な参加 ・入学式、卒業式をはじめ、市、各種団体のイベントに出席し、活動状況の把握に努めた。 4) 視察研修の実施 ・小中一貫教育や児童養育施設の視察研修を実施し、今後の養父市の教育推進の参考とした。また、市長との懇談会を行い、総合教育会議の設置に向けた市長との連携について活発な意見交換を行った。 ○活発な委員活動ができた。引き続き委員活動の活性化を図る。</p>

評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
4	<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>○定例会議は各分野の諸課題について意見交換や対応を行い養父市の教育推進に取り組んでいる。 ○定例会議の前には事前協議会を行いスムーズな会議運営に心がけている。 ○例規の整備については規則等について審議を行い、承認や決定を行った。 ○活発な会議運営を行なっている。</p>	A	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○会議の開催、運営については事前協議会がもたれ適正に運営されている。学校現場等の視察等も実施されている。今後も適正な会議運営を図っていただきたい。</p>
	<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>○養父市のホームページや市広報を活用して会議の開催状況や審議内容について掲載を行い、目に見える教育委員会に努めている。また、教育委員会制度の改正についても掲載するなど、周知に努めた。今後も確かな情報発信に努めたい。</p>	B	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○教育委員会並びに教育委員の活動をホームページや広報を通じて積極的に情報発信している。今後も確かな情報発信に努めていただきたい。</p>
	<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>○教育委員会連合会が主催する研修会等に積極的に情報収集や教育委員としての資質の向上に努めている。 ○幼・保育施設、学校園訪問の回数と場所を増やしている。また、入学式、卒業式を行っている。また、各種団体のイベントをはじめ、市、各種団体の状況把握に努めている。 ○小中一貫教育や児童養育施設の視察研修を実施し、今後の養父市の教育推進の参考とした。また、市長との懇談会を行い、総合教育会議の設置に向けた市長との連携について意見交換ができてきている。</p>	B	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○各種研修会等に積極的に参加し、教育委員としての見識を深めていただいた。また、教育の諸課題についても視察研修や現場視察を実施し見聞を広げ教育振興に努めていただきたい。</p>

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別
 ○印

学校教育課

1 本年の教育推進の重点

推進の重点1 「確かな学力」と主体的に学ぶ態度を培う

2 本年の推進の重点を具体化した事業

- ① 自主的に学ぶ意欲を育てる「そうあんくんの日」の設定
- ② 週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ③ 「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>週4日以上学習タイムを充実し、基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ態度の育成に努めます。</p> <p>○学習タイムの充実による基礎・基本の定着 ○朝読書による読書週間の確立と落ち着いた始業 ○小中連携、家庭との連携による学習習慣の確立</p>	B	<p>○全ての学校で朝読書に取り組み、落ち着いて1日のスタートができています。また、読書の習慣もついてきています。 ○家庭学習の手引書を小中連携で作成し、取り組んでいる。 ○時間を工夫し、基礎基本のドリルタイムを全ての学校で取り組んでいる。 ○中学校では、3年生の2学期から読書タイムを基礎基本の学習タイムに切り替え、学力向上に取り組んだ。</p>
2	<p>体験的な学習や問題解決的な学習、「ことばの力」を向上させるための言語活動を学校教育活動全領域において充実させ、思考力や判断力・表現力を育成します。</p> <p>○自分の考えをもとに、ペア・グループでの話し合い活動を取り入れた、伝え合い、高め合う授業作り ○学習のめあての設定、ふりかえりの実施 ○集会等において、意見や感想を発表する場面を設定によるコミュニケーション能力の向上 ○学活でのスピーチや弁論大会の工夫</p>	B	<p>○自分の考えを的確に表現する活動や話し合い活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力が育成されている。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析を生かした、活用する力をつける授業作りを行っている。 ○体験したことを発表する機会を増やしたことが、表現力の向上につながっている。</p>
3	<p>家庭学習の手引書等により、学習習慣の定着を図ります。また、自ら課題を見つけ、自主的に学ぶ意欲を育てるため「そうあんくんの日」を設定して取り組みます。</p> <p>○小中連携における家庭学習の手引き作成・実施 ○家庭と連携した「家庭学習手引き」による家庭学習時間の定着 ○各学校の実態に応じた「そうあんくんの日」の工夫 ○小中連携による「そうあんくんの日」の取組</p>	B	<p>○小中連携における家庭学習の手引きにより、9年間を見通すことができた。 ○「そうあんくんの日」により、自らの課題に応じて取り組む自主性が育ちつつある。 ○家庭の協力を得ること、で、「そうあんくんの日」が定着しつつあり、意識が高まっている。</p>

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>○全ての学校で読書活動に取り組み児童・生徒に読書習慣が定着しつつある。 ○読書以外にも各校において基礎学力向上の取組を進めている。 ○家庭での学習時間確保、小中連携が課題である。</p>	B	<p>○全ての学校で読書活動、基礎学力向上の取組は定着しつつある。家庭学習時間の確保と小中連携の課題については具体的な対策や取組が必要である。</p>
<p>○全ての学校で体験を通じた話し合い活動の充実を図り、思考力、表現力の育成を図った。 ○全国学力・学習状況調査結果の分析を生かした授業づくりを進めている。</p>	B	<p>○全ての学校で体験と話し合い活動の充実を図り、思考力、表現力の育成が図られている。また、全国学力・学習状況調査分析結果を生かした授業づくりを進めていた。</p>
<p>○小中連携における家庭学習の手引きにより、9年間を見通すことができた。 ○「そうあんくんの日」により、自らの課題に応じて取り組む自主性が育ちつつある。 ○「そうあんくんの日」の取組について、学校によって温度差がある。定着に向け、小中連携で取り組み、家庭の協力を得ることが必要である。</p>	B	<p>○家庭学習の手引きにより、9年間を見通した学習習慣の定着を目指された。 ○「そうあんくんの日」の取組については、取り組みの定着と池田草庵の教えについての理解を深める取組が必要である。</p>

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】
 評価者の別
 印
 学校教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	教育総務 2 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える
2 本年度の推進の重点を具体化した事業	
● 学校給食センター統合建設事業	
● 小中学校施設の維持管理等	

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1 学校給食センター統合建設事業	1) 学校給食センターの竣工 ・平成25年12月に契約 全体工事内容 ・新築学校給食センター本体工事 ・八鹿学校給食センター解体工事 ・新給食センターは平成26年12月に完成。八鹿給食センターは平成27年3月に解体を完了する。	B	1) 学校給食センターの竣工 ・給食センターは12月22日に竣工し、3学期から稼働。 ・八鹿給食センターの解体工事は年度未完了。 ・年度当初の計画どおり3学期から稼働することができた。
2 小中学校施設の維持管理	1) 小学校体育館防災強化工事の実施 下記工事を行い各学校の教育環境を整備する。 ・八鹿小学校防災機能強化工事 ・養父小学校防災機能強化工事 ・広谷小学校防災機能強化工事 2) その他修繕工事の実施 ・健屋・関宮小学校IH・カー定期修繕工事 ・養父小学校図書室・椅子修繕工事 ・その他修繕工事	B	○市内9小学校、4中学校の児童、生徒が安全で安心して学習できるよう学習環境整備を行った。老朽化した学校では、修繕箇所も増えており突発的な修繕も起こるが、危険度や現地を確認のうえ、予算の範囲内で優先順位を決めて計画的に整備した。 ○課題は、予算減少により修繕できない事態が予想される。学校施設の修繕費を特別枠として予算化することが必要。
3 小・中学校PC整備事業	1) 小中学校のパソコン更新事業 ・市内3小学校(伊佐小学校、建屋小学校、関宮小学校)、1中学校(八鹿青森中学校)のパソコン教室、校務用パソコンの更新を行った。当初は8月中に更新予定であったが11月の更新となった。 ○今後、年度計画に沿って計画的に更新する必要がある。	C	○ICT教育用品は年々進歩している。教育現場や時代の要求に応じて計画的に機器を更新する必要がある。

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○給食センターは12月22日に竣工し、年度当初の計画どおり3学期から稼働している。八鹿給食センターの解体工事は年度未完了。計画どおりのスケジュールで整備できた。	B	○計画どおり施設が完成した。平成27年1月から稼働し市内全学校に給食が配達されている。今後は児童生徒の食育の観点施設として有効活用を図りたい。	A
○市内9小学校、4中学校の児童、生徒が安全で安心して学習できる教育施設環境整備を行っている。老朽化した学校もあり、危険度や現地を確認のうえ予算の範囲内で優先順位を決めて計画的な整備が必要。また、老朽化した施設もあるため、計画的に改修工事を行う必要がある。	C	○限られた予算の中ではあるが計画的な学校施設の維持管理に心がけ、計画的に維持修繕工事、改修工事を行い良好な教育環境整備に努めていきたい。	C
○ICT教育用品は年々進歩している。教育現場や時代の要求に応じて計画的に機器を更新する必要がある。	C	○教育現場や時代の要求に応じて計画的にPC機器の更新を行い教育環境整備に努めていきたい。	C

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

- 【担当課自己評価】
- 【教育委員会評価】
- 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 学校教育部
 印

1 本年の教育推進の重点

- 推進の重点 1 「確かな学力」と主体的に学ぶ態度を培う
- 2 本年の推進の重点を具体化した事業
- ① 自主的に学ぶ意欲を育てる「そうあんくんの日」の設定
 - ② 週4日以上の学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
 - ③ 「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4	「新学習システム」による個に応じたきめ細かな指導を行います。 ○ 授業や同室複数指導によるきめ細かな指導、つますきへの対応 ○ 複数担任制、教科担任制による学習指導の充実 ○ 児童・生徒を中心とした伝え合う学習の推進 ○ 特別な支援を必要とする児童・生徒への指導	C	○ 児童・生徒のつますきを把握でき、個々の課題に応じた指導を行うことができた。 ○ 少人数授業や同室複数指導による個に応じたきめ細かな指導により、学力の定着が図られている。 ○ 新学習システムと教員との打ち合わせ方法を工夫しているが、その時間確保にはまだ課題がある。 ○ 少人数クラス編制や習熟度別指導の工夫が今後必要である。
5	読書の楽しさを味わわせるとともに、学校図書館の機能を充実させ、本に親しむ態度を育てます。 ○ 「ノーマデリアデー」の推進による読書習慣の確立、親子読書の推進 ○ 朝読書の設定 ○ 読書ボランティアによる本の読み聞かせ ○ 「チャレンジ〇冊」等の設定による意欲向上 ○ 図書環境整備と蔵書管理の工夫	A	○ 朝読書の全校実施、地域のボランティアや教職員等による読み聞かせの機会が充実している。 ○ 「チャレンジ〇冊」で表彰すること、意欲向上につながっている学校がある。 ○ 図書室の環境整備により利用が増えている。 ○ 親子読書について、より一層、推進していきたい。
6	キャリア教育の視点に立ち、個々の能力や適性、興味関心に応じた進路指導を進めます。 ○ 係・委員会活動をはじめとする教育活動全体を通じたキャリアアップ ○ 各教科等における勤労観や職業観の育成 ○ 個性や適性を生かした進路選択のためのガイダンスの充実 ○ 「トライやる・ウィーク」を契機とした職業・進路指導 ○ オープンハイスクールへの参加奨励	B	○ 係・委員会活動、学級会活動を通じて、一人一人の社会的自立に向け、基礎となる能力や態度を培うことができている。 ○ 職業や進学先調べにより、勤労観や職業観が育成された。 ○ トライやる・ウィークによる職場体験を充実させることができている。 ○ オープンハイスクールに積極的に参加するとともに、進路説明会等で情報提供を充実させている。

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○ 児童・生徒のつますきを把握し、個々の課題に応じた指導を行う学力向上に向けた指導による ○ 少人数授業や同室複数指導による個に応じたきめ細かな指導により、学力の定着が図られている。 ○ 新学習システムと教員との連携を工夫しているが、その時間確保にはまだ課題がある。 ○ 少人数クラス編制や習熟度別指導の工夫が今後必要である。	C	○ 少人数授業や同室複数指導による個に応じたきめ細かな指導がされ、学力の定着が図られている。 ○ 新学習システムと教員との連携を工夫しているが、少人数クラス編制や習熟度別指導の工夫が必要である。 ○ 教員の指導力の向上に努められた。	C
○ 朝読書の全校実施、地域のボランティアや教職員等による読み聞かせの機会が充実したたり、表彰制度を設けた積極的な取り組みが行われている。 ○ 読書感想文コンクールでも多くの児童が賞し成果が出ている。 ○ 図書室の環境整備により利用が増えている。 ○ 親子読書について、より一層、推進していきたい。	A	○ 朝読書の全校実施、地域ボランティアや教職員等による読み聞かせの機会が充実している。 ○ 積極的な読書活動が展開されている。読書感想文コンクールでも多くの児童が入賞し成果が出ている。図書室の貸出数は増加しているが、なお一層、図書の蔵書を増やす工夫が必要である。 ○ 中学生は時間に追われて生活している実態がある。読書量も小学生と比べて少ない傾向がある。時間を上手に活用できる生徒の育成を図っていく必要がある。	B
○ 係・委員会活動をはじめとする教育活動全体を通じたキャリアアップ ○ 各教科等における勤労観や職業観の育成 ○ 個性や適性を生かした進路選択のためのガイダンスの充実 ○ 「トライやる・ウィーク」を契機とした職業・進路指導 ○ オープンハイスクールへの参加奨励	B	○ トライやる・ウィークは生徒の勤労観や進路選択に良い影響を与えている。今後とも市内事業者の理解と協力を得る働きかけを行い、市全域から生徒が活動場所を選択できるようなしていく必要がある。 ○ 生徒はオープンスクールに積極的に参加している。学区の変更に伴い生徒や保護者には進路説明会等で積極的に情報提供する必要がある。	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会 評価調査

○【担当課自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別
 ○印
 学校教育課

1. 本年度の教育推進の重点
 推進の重点 2 命と人権を大切に「心の教育」を推進する

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業
 ①教育活動全体を通じて命と人権を大切にすることを心の教育
 ②「Q-U」調査を通じた子どもの内面理解による生徒指導
 ③いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応

3. 自己評価結果 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)

評価項目	取組内容	担当課評価・改善の方策	達成状況	
1	<p>道徳の時間をはじめ、教育活動全体を通じて、命と人権を大切にします。また、不合理な差別や偏見に気が付いたらを解決しようとする実践的な態度を育てます。</p> <p>福祉教育を推進し、思いやりや心や共に生きる心を育てます。</p>	<p>○「兵庫版道徳教育副読本」の年間指導計画への位置づけ、道徳参観日の設定 ○人権標語や人権作文等の取組 ○教育活動全体におけるいじめ防止に向けた指導や啓発活動の推進</p>	<p>○「兵庫版道徳教育副読本」の活用 時数を増やした。実践力を高める授業ができた。また、道徳の参観日の実施による。 ○人権標語や作文の取組を通して合理的な差別や偏見に気が付く。解決するための未然防止について、生徒を中心に全校生で取り組んだ学校があるが、反面、児童生徒間のトラブルが発生した学校がある。さらに児童生徒の主体的な取り組みを推進する必要がある。</p>	B
2	<p>福祉教育を推進し、思いやりや心や共に生きる心を育てます。</p>	<p>○縦割り班による異年齢交流(清掃・運動会・遠足・集会) ○社会福祉協議会等と連携した福祉体験(車椅子・アイマスク・点字・手話) ○児童会・生徒会の共同募金、エコキョウ運動 ○ふれあい郵便や施設訪問による高齢者との交流 ○幼児センター、保育所、幼稚園との交流</p>	<p>○縦割り班活動を通して異年齢交流により、思いやりや協力する態度を培うことができた。 ○社会福祉協議会等と連携して福祉体験を充実することなどができた。 ○老人施設の継続的訪問やふれあい郵便等による、お年寄りとの交流の機会を一層充実させていく。</p>	B
3	<p>特別な支援が必要な子どもについては、特別支援学校など専門機関との連携を図り、個別の指導計画に基づいて適切な支援を行います。</p>	<p>○校内委員会の定期開催(個別の教育支援計画、指導計画作成と記録) ○特別支援学校と連携した効果的な支援 ○通級指導による個に応じた指導 ○関係機関との連携による個に応じた対応(ケース会議の開催) ○スクールカウンセラーによる相談体制と校内研修の充実</p>	<p>○個別の教育支援計画・指導計画に基づいた個に応じた指導の充実や、校内委員会の定期的な開催により、全教職員で子どもの生活及び学習の様子を共通理解を図っている。 ○特別支援学校との連携や、講師を招いた研修を指導に生かしている。 ○インクルーシブ教育やユニバーサルデザインに配慮している。特別支援教育に係る教職員の意識を高めていく必要がある。</p>	C

評価項目	自己点検・評価委員会による評価	達成状況
4. 評価項目ごとの評価 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)	<p>○「兵庫版道徳教育副読本」を有効に活用し、実践力を高める授業を実施できた。また、道徳の参観日を開催した学校もあった。 ○道徳教育を通して不合理な差別や偏見に気が付く。命と人権を尊重する態度を培っている。 ○いじめ防止について、生徒・教職員で取り組んでいるが児童生徒間のトラブルが発生した学校があった。さらに児童生徒の主体的な取り組みを推進する必要がある。</p>	B
	<p>○縦割り班活動を通して異年齢交流により、思いやりや協力する態度を培っている。 ○関係機関と連携して福祉施設の訪問等、お年寄りとの交流の機会を持つなど充実した活動を実施している。 ○手話の学習について小学校就学前の段階で終わっている傾向が見受けられる。 ○目的達成のため、継続的な取り組みを進めていく必要がある。</p>	B
	<p>○個別の教育支援計画・指導計画に基づいた指導や、校内委員会の定期的な開催により、子どもたちの生活及び学習の様子について、全教職員で共通理解を図られるよう努めている。 ○心理士やスクールアドバイザーの派遣等で成果が出ている。 ○特別支援学校との連携や、講師を招いた研修を行っている。全教職員にインクルーシブ教育やユニバーサルデザインに係る理解と意識を高めていく必要がある。</p>	B

外部評価委員会による評価

<p>○「そうあんの日」や池田菅庵先生の教えを生かした取り組みと、総体的な規範となした道徳教育の充実を図られた。また、近年、インターネットやスマートフォン等を利用してネットトラブルが問題となっており、重点課題として積極的に取り組まれた。</p>	B
<p>○高学年のリーダーシップが弱く感じられる。引き続き縦割り班活動を通じた異年齢交流の機会を設け、思いやりや協力する態度を培う必要がある。 ○手話の学習について中学校まで継続的に取り組む福祉教育の充実が必要だ。</p>	B
<p>○支援が必要な児童生徒について、個別教育支援計画・指導計画に基づいた指導や心理士、スクールアドバイザーの支援を得て、全教職員で共通理解が図られるよう努めている。今後関係者の連携を図り適切な支援を図りたい。</p>	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会 評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 ○印
 学校教育課

1 本年度の教育推進の重点
 推進の重点 2 命と人権を大切に「心の教育」を推進する

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①教育活動全体を通じて命と人権を大切にすることを徹底する
- ②「Q-U」調査を通じて子どもの内面理解による生徒指導
- ③いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応

評価項目	取組内容	担当課評価・改善の方策	達成状況
4	子どもが自分たちの大切さや他人の大切さとも認め合えるよう、心の通い合う学級づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○Q-Uの分析結果を生かした児童生徒理解と学級作り ○言葉遣いや呼称など言語環境を整えることによる人権意識の高揚 ○縦割り活動の充実による異年齢交流の推進 ○学校行事を通じた達成感・有感による団結力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○班活動や係活動を通して集団の自覚と責任をもち、協力することの大切さを理解している。 ○縦割り班活動が、高学年のリーダー性向上と低学年への手本・憧れにつながっている。 ○人間関係のもつれによるトラブルが発生した学校がある。より一層、心の居場所となる学級づくりを進める必要がある。 ○Q-Uの分析結果をさらに有効に活用できるよう、教職員の研修を進めていく必要がある。
5	対話や教育相談、生活アンケート(Q-U調査等)を通して一人一人の子どもの内面理解に努め、人間的なふれあいに基づく生徒指導を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○「子どもを語る会」の定期的開催 ○「生活アンケート」「Q-U」等による実態把握と全職員の間での共通理解に基づく生徒指導 ○子どもと向き合う時間の確保 ○スクールカウンセラーによる教育相談、観察指導 ○カウンセラーやマインド研修による生徒理解と指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒との会話や日記、生活ノートや生活アンケートにより、児童生徒の理解を深め、指導力の向上に努めている。 ○Q-U調査による分析結果が学級経営・生活指導に生かされており、今後も継続した取り組みが必要である。 ○教育委員会に学校カウンセラーを配置し、教職員の支援体制を構築することを行った。
6	いじめや不登校、児童虐待等の問題に対しては、家庭や地域、関係機関との連携を密にし、未然防止に努めるとともに、その兆候が見られた際には迅速かつ適切な対応を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ防止基本方針」や「いじめ対応マニュアル」による指導体制の充実 ○校内指導体制の充実 ○スクールカウンセラーによる教育相談、観察指導 ○学警連絡会の開催 ○「子どもを語る会」の継続実施による未然防止と早期解決 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや不登校児童生徒の校内指導体制は充実し全職員で未然防止・早期解決に努めており、近年は不登校の児童生徒は減少している。今後もより一層、関係機関や保護者と連携し、未然防止に努めていたいただきたい。

4. 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ○集団の自覚と責任、協力することの大切さを理解している。縦割り班活動が、高学年のリーダー性の向上につながっている。 ○Q-Uの分析結果をさらに有効に活用できるよう、教職員の研修を進めていく必要がある。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒との会話や日記、生活ノートや生活アンケートにより、児童生徒の理解を深め、指導力の向上に努めている。 ○Q-U調査による分析結果が学級経営・生活指導に生かされており、今後も継続した取り組みが必要である。 ○教育委員会に学校カウンセラーを配置するなど教職員の支援体制を構築することができた。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや不登校児童生徒の校内指導体制は充実し全職員で未然防止・早期解決に努めている。 ○より一層、関係機関や保護者との情報交換や連携を密にし、信頼関係を構築し問題行動の未然防止に努めていく必要がある。 	B

外部評価委員会による評価	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ○班活動や係活動が実施されているが、もともと高学年のリーダー性が図られるような学級づくりに努められたい。また、Q-Uの分析結果を有効に活用できると、教職員の研修を図っていただきたい。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ○指導力の向上が図られているが、今後も一層児童生徒に寄り添った指導を心がけていただきたい。Q-U調査による分析結果が学級経営・生活指導に生かされており、今後も継続した取り組みを図っていただきたい。 ○視野を広げる努力を教職員も実践していくことが、子どもも理解につながる。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや不登校児童生徒の校内指導体制は充実し全職員で未然防止・早期解決に努めており、近年は不登校の児童生徒は減少している。今後もより一層、関係機関や保護者と連携し、未然防止に努めていただきたい。 	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 3 豊かな感性とたくましい身体を育てる

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ① 「やぶっ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ② 多様な運動に親しませると運動プログラムの実践
- ③ 教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>「やぶっ子夢プラン」を充実すると呼ばれた「池田草庵」をはじめとする先人に学ぶ教育を推進し、豊かな感性や郷土愛を育みます。</p> <p>○冊子「草庵先生と青箱書院」 ○養父市まちの文化財の活用 ○地域にゆかりのある先人教育 ○「山の学校(水ノ山登山)」 「ふるさと教室(地区の伝統文化継承に向けた取組)」の充実 ○校区内の施設見学・体験学習 ○地域の伝統行事、公民館事業への参加奨励 ○子ども囃鳴アオララム参加</p>	B	<p>○「池田草庵」を中心とする先人の教えが、学校教育や児童生徒の生活の中に生かされてきている。8月に実施した「子ども囃鳴アオララム」で、その成果を発表することができた。</p> <p>○「やぶっ子夢プラン」の実施により、協働する喜びや達成感、ふるさととの良さを認識できている。○地域の施設見学や行事への参加を通して、郷土愛が育まれている。</p>
2	<p>○社会見学、地域探訪の推進 ○自然との直接体験を通して豊かな心を育む(生き物探査、米作り、水生物観察等) ○キャリア教育の視点に立ったトライやる・ウィークの推進 ○学校農園・学級菜園での栽培活動 ○講師招聘による体験学習</p>	B	<p>○外部講師の協力も得ながら、地域の自然環境に対する関心を高めることができた。</p> <p>○地域の特色を生かした生き物探査・米作りなど、発達段階に応じた体験教育ができています。</p> <p>○「トライやる・ウィーク」では、事業所の協力を得て、達成感や成就感を得ることができ、当初の目的を達成できています。</p>
3	<p>新体力テスト等による児童生徒の運動能力の状況把握、また多様な運動に親しませると運動プログラムの実践を通して、日常的な体力向上に努めます。</p>	B	<p>○「運動プログラム2009」や「体力テスト」の結果分析の活用等により、指導の方法や内容の改善が行われた。</p> <p>○個に応じた目標設定、季節に応じた種目設定で、主体的に取り組む態度を養い、体力の向上を図られた。</p> <p>○家庭の芝生化による運動の時間の増加や体力・能力の向上について、今後検証していく。</p>

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>○「池田草庵」を中心とする先人の教えが、学校教育や児童生徒の生活の中に生かされてきている。「子ども囃鳴アオララム」で、その成果を発表することができた。</p> <p>○「やぶっ子夢プラン」の実施により、協働する喜びや達成感、ふるさととの良さを認識できている。○養父市の特色ある教育が実践できつつある。</p>	A	<p>○「子ども囃鳴アオララム」では、その先人教育の成果を今後も作ることができるよう、養父市だけでなく、もっと広い世界で通用する子どもも必要である。</p> <p>○「やぶっ子夢プラン」の実施により、協働する喜びや達成感、ふるさととの良さを認識できている。今後池田草庵の教えを深め、特色あるふるさとと教育、先人に学ぶ教育を展開していただきたい。</p> <p>○小学校同士の交流の場を増やす必要がある。</p>
<p>○地域の特色を生かした教育活動、課外活動が実践され、発達段階に応じた体験教育ができています。</p> <p>○「トライやる・ウィーク」では、事業所の協力を得て、達成感や成就感を得ることができ、当初の目的を達成できている。</p> <p>○全校とも校内美化活動が徹底され教育効果が上がっている。</p>	A	<p>○地域の特色を生かした教育活動、発達段階に応じた体験教育ができています。「トライやる・ウィーク」では、事業所の協力が得られ、達成感を得ることができ、目的が達成できている。活動場所を全体的に広げていくことが有効である。</p> <p>○校内美化活動は全学校が取り組み、教育効果が上がっている。</p>
<p>○体力テスト等の結果分析の活用等により、指導の方法や内容の改善が行われ、個人に応じた目標設定、季節に応じた種目設定を行う等、体力の向上を図られている。</p> <p>○家庭の芝生化による児童の体力向上効果については、今後検証していく必要がある。</p>	B	<p>○体力テスト等の結果分析の活用等により、運動指導、体力づくりの方法や内容の改善が行われ、個人に応じた目標設定、季節に応じた種目設定を行う等、体力の向上を図られている。今後も継続した取り組みに努められた。</p>

- 【担当課自己評価】
- 【教育委員会 評価】
- 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 学校教育部 ○印

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別

○印
 学校教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 3 豊かな感性とたくましい身体を育てる

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ① 「やぶっ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ② 多様な運動に親しませる機会づくりと運動プログラムの実践
- ③ 教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	進捗状況	担当課評価・改善の方策
4	<p>各学校における保健計画に基づいて、組織的に健康観察や保健指導、健康相談を行います。</p> <p>○毎朝の健康観察 ○学校保健委員会の開催 ○保健指示の工夫 ○歯科衛生士による歯磨き指導と歯磨きタイムの設定 ○薬物乱用教室、喫煙防止教室の実施</p>	B	<p>○学校保健委員会の意見を、学校便りや健康便りを通じて家庭に啓発してきた。</p> <p>○掲示物を常に新しく興味あるものに工夫することで、児童生徒の関心を高めることになった。</p> <p>○歯科衛生士による歯磨き指導と歯磨きタイムを設定することにより、食後の歯磨きの充実が進んできた。</p> <p>○小中連携をさらに充実した保健指導を必要がある。</p>
5	<p>教育活動全体で食育を推進します。また、関係機関の協力を得ながら、地産地消を意識した安全・安心でおいしい給食を提供し、望ましい食習慣の形成に努めます。</p> <p>○栄養教諭(栄養職員)による食育指導 ○給食センターにおける地産地消の推進 ○学校給食を活用した食育実践(食材の皮むき体験、給食だよりによる啓発) ○家庭への定期的な啓発活動(学校だより、保健だより食育だよりの発行) ○「子どもが作る弁当の日」の取り組み</p>	B	<p>○食生活を実践できる力を育成している。</p> <p>○栄養教諭による食育指導、体験活動が充実した。</p> <p>○給食の「やぶっ子ぶがぶがメニュー」により、地産地消を意識する児童生徒が増えている。</p> <p>○児童生徒が自分で弁当を作る日の設定により、食への喜びや感謝を感じられるようになった。今後この取り組みの充実を図っていき</p>

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

自己点検・評価委員会による評価	進捗状況	外部評価委員会による評価	進捗状況
<p>○学校便りや健康便りを通して児童生徒の関心を高める工夫が凝らされている。</p> <p>○特に、歯科衛生士による歯磨き指導や、歯磨きタイムを設定することにより、食後の歯磨きの充実がうかがえる。今後小中連携をさらに充実させる必要がある。</p>	B	<p>○児童生徒の健康管理については学校便りや健康便りを通して児童生徒の関心を高める工夫が凝らされている。特に歯磨き指導や、歯磨きタイムの設定により、食後の歯磨きの充実が見通した保健指導の充実を願っていた。</p>	A
<p>○新学校給食センターが平成26年12月に完成し、3学期から順調に稼働している。アレルギー対策等、安全安心な給食の提供に努められている。</p> <p>○栄養教諭による食育指導、体験活動も充実している。今後も充実した食育を推進する必要がある。「子どもが作る弁当の日」はその趣旨を指導者がしっかりと理解し、目的に沿った取り組みを推進するよう努められた。</p>	B	<p>○新学校給食センターが平成26年12月に完成し、3学期から順調に稼働している。アレルギー対策等、安全安心な給食の提供に努められている。</p> <p>○栄養教諭による食育指導、体験活動も充実している。今後も充実した食育を推進する必要がある。「子どもが作る弁当の日」はその趣旨を指導者がしっかりと理解し、目的に沿った取り組みを推進するよう努められた。</p>	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

○【担当課自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別
 ○印

学校教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 4 学校・家庭・地域の連携のもと、魅力ある学校づくりを進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①地域の特性に応じた安全教育・防災教育の推進
- ②オープンスクール等の実施による開かれた学校づくり
- ③情報モラルについての研修及び啓発活動

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>地域の特性に応じた安全教育・防災教育の推進を推進し、子どもたちの防犯・防災意識の高揚を図ります。</p>	B	<p>交通安全教室の開催(警察署との連携) ○不審者対応訓練、救急訓練、心肺蘇生法講習会 ○警報発令時の配備体制確立と避難所運営に係る担当者会議の開催 ○防災マニュアルに基づく避難訓練、引渡し訓練の実施 ○「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」等、追悼集会の開催 ○警報発令時の保護者への確実な連絡 ○教職員による交通立ち番、下校指導 ○防犯グループと連携した登下校指導 ○通学路安全点検の実施 ○養父市通学路交通安全プログラム策定</p>
2	<p>保護者や地域の方々との理解と協力のもと、登下校の安全確保に努めるなど、地域ぐるみで子どもを育てます。</p>	B	<p>○警報発令時に、ケーブ放送や電話で、保護者へ確実な連絡を行うことができた。 ○定期的立ち番を行うことで、歩行・走行マナーと通学路の安全点検確保に取り組んでいる。 ○PTAによる危険箇所のマップ作りや「子ども110番の家」の確認が進んでいる。 ○関係諸機関と連携し交通安全プログラムを策定した。</p>
3	<p>学校評価の結果を教員に反映させ、地域に信頼され、学校づくりに努めたり、オープンスクール等を通じて教育内容を広く公開し、開かれた学校づくりを推進します。</p>	B	<p>○オープンスクールの定期的開催 ○学校評議員会及び学校関係者評価委員会の定期開催 ○評価結果の実施と公開(保護者アンケート、自己評価、関係者評価) ○民生児童委員との懇談 ○ホームページ、学校だより、学級通信、保健だより等による教育活動の周知 ○PDCAサイクルを生かした学校経営</p>

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>交通安全教室で、自分の命は自分で守る態度の育成が図られている。今後も継続した取組を進めていく。 ○警報発令時・災害発生時の対応について、常に実践できるように定期的な訓練を継続していく必要がある。</p>	B	<p>安全教育、防災教育については各学校でマニュアルを作成し定期的な訓練や交通安全教育を実施し、自分の命は自分で守る態度の育成が図られている。今後も継続した訓練に努めていきたい。</p>	B
<p>保護者や地域の協力により下校時の安全確保が図られている。教職員も定期的立ち番を行うことで、歩行・走行マナーと通学路の安全点検確保に取り組んでいる。</p>	B	<p>地域の方が学校に入る機会は増えてきた。 ○教職員、保護者や地域の協力により下校時の安全確保が図られている。道路管理者との連携を図り通学路の安全確保対策を早急に実施していきたい。</p>	B
<p>学校評議員会、学校関係者評価委員会、民生児童委員との懇談等から出た意見が各関係者評価委員会の意見を生かすために活用されている。 ○オープンスクールには地域住民の参加が進んでいる。 ○PDCAサイクルの機能を生かすし、教育活動について再点検が必要がある。</p>	B	<p>学校評議員会等から出た意見が各関係者の教育活動に生かされている。オープンスクールには地域住民の参加があり、開かれた学校づくりが進んでいる。</p>	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

- 【担当課 自己評価】
- 【教育委員会 評価】
- 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 印
 外部評価委員会評価

学校教育課

1. 本年度の教育推進の重点

- 推進の重点 4 学校・家庭・地域の連携のもと、魅力ある学校づくりを進める
2. 本年度の推進の重点を具体化した事業
- ①地域の特性に応じた安全教育・防災教育の推進
 - ②オープンスクール等の実施による開かれた学校づくり
 - ③情報モラルについての研修及び啓発活動

3. 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4	「ネット上のいじめ」や犯罪被害から子どもを守るために、有害情報の危険性や対応策についての啓発活動を積極的に行います。また、PTAと連携した情報モラル研修や家庭におけるルールづくり、フィードバックの活用促進に努めます。	道徳の時間等での発達段階に即したマナーやエチケットの指導 アンケートによる実態把握と指導 学校だより、学級通信等を通じて保護者へルールの周知と啓発 情報モラルについてのPTA合同研修会開催	○スマホ等の情報通信機器利用者が増加しており、ネットによるトラブルが発生していることから、取組を充実させる必要がある。 ○PTAと連携して、専門的な講師を招聘しての研修会を実施する学校が多かった。今後も継続する必要がある。 ○家庭への継続した啓発と協力が必要である。

4. 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○スマホ等の情報通信機器を使用する児童生徒が増加しており、ネットトラブルが発生していることから、養父市においても対策や取組を強化、充実させる必要がある。 ○家庭、PTAと連携した取組を継続していく必要がある。	C	○養父市においてもネットによる有害情報の危険性や対応策について積極的に啓発活動を実施する必要がある。PTA等と連携して情報モラル研修や家庭におけるルールづくり、フィードバックの活用促進を図る取組が必要である。なお一層の情報モラル教育が必要である。	C

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別
 ○印

学校教育課

1 本年度の教育推進の重点
 推進の重点 5 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業
 ①校内研修の充実による実践的指導力の向上
 ②教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくり
 ③他校種間教員の連携によるめざす子ども像の共有

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	積極的に授業を公開してお互いが見合う中で授業力を高めたい。また、校外研修にも積極的に参加し、専門性と実践的指導力の向上に努めます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実を柱に校内研修を実施し、授業力向上につなげている。 ○積極的に授業公開する学校・学級が増え、他校の授業研究に参加する教員も増えた。 ○夏期研修講座では、定員を超える積極的な参加が見られた。 ○今後、若手教職員の増加が予想されることから、授業力と生徒指導力を高める研修を工夫して実施する必要がある。
2	効率的・組織的な学業運営に努めることと、教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくりに努めます。また、OJTによる若手教員の育成を図ります。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○報告、連絡、相談、確認の徹底による共通理解と風通しのよい職場作り ○学校業務改善による働きやすい職場作り ○教職員の専門性が活かせる分掌配置 ○主幹教諭や経験豊富な教職員の推進
3	体罰や威圧的な言動に類する指導ではなく、子どもに対する愛情と責任感を持ち、心の通い合う指導に努めます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の内面理解に基づく指導 ○スクールカウンセラーによる年2回のカウンセリングマインド研修の実施 ○子どもを語る会、心のアンケータ、生活実態アンケート等の実施 ○教職員マニキュアル「N O 体罰」を使用した研修

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に授業公開する学校・学級が増えた。また、他校の授業研究に参加する教員や研修講座に参加する教員も増え、指導力向上が図られている。 ○今後は若手教職員の増加が予想されることもあり、授業力と生徒指導力を高める研修を工夫して実施する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も若手教職員の増加が予想され、授業力と生徒指導力を高める研修を工夫して実施し、個々の教職員の専門性と実践力、資質の向上に努力していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ○学校ルールブックの活用による業務の効率化が進み、定時退勤日数が定着し、時間的余裕が生まれ児童生徒と向き合う時間が確保され、心の通い合う指導につなげられている。 ○主幹教諭や経験豊富な教職員を中心に、組織的に機能する体制を整え、個々の能力が発揮できる分掌配置を推進した。 ○若手教員が増加する中、若手教員研修の内容について、さらなる充実を図る必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の効率化が進み、時間的余裕や精神的余裕が生まれ児童生徒と向き合う時間が確保されつつあり、心の通い合う指導につながっている。若手教員が増加する中、若年教員研修のさらなる充実を図っていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の内面理解に基づいた指導が図られている。 ○児童生徒の素行不良を毅然と指導できる体制を全教職員共通理解の下で継続して実践していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の内面理解に基づいた指導が図られているが、さらに生徒指導力の向上を図り、児童生徒の素行不良を毅然と指導できる体制を全教職員共通理解の下で継続して実践していただきたい。

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課自己評価】
 評価者の別 ○【教育委員会 評価】
 ○印 ○【外部評価委員会評価】
 学校教育課

1. 本年度の教育推進の重点
 推進の重点 5 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める
2. 本年度の推進の重点を具体化した事業
 ①校内研修の充実による実践的指導力の向上
 ②教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくり
 ③他職種間教員の連携によるめざす子ども像の共有

3. 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4	地域行事への参加等を通して地域とのつながりを深め、養父市の良さを魅力とする子どもに伝えたい。	○自治協議会と連携したふさと学習や環境体験学習 ○地域開催の行事や祭りへの積極的参加 ○教職員の地域行事参加と地域住民との交流 ○クローン作戦やリサイクル活動等への参加	○自治協議会の協力を得て、ふるさと良さを体験できている。 ○地域行事に作品や演技で出演することができた。 ○児童生徒のみならず教職員の地域行事への参加が増え、地域住民との交流が進んだ。 ○クローン作戦への参加やリサイクル活動を通じて地域との連携が深まった。
5	保・幼・小・中学校の教職員が緊密な連携のもと、めざす子ども像を共有して、常に情報交換しながら系統立てた指導を行います。	○保幼小連携による保育・授業参観の実施 ○保幼小の交流行事の見直しと企画・立案の積極的推進による各部署の連携と充実 ○中学校教員による乗り入れ授業	○保幼小連携により、児童生徒や教職員の交流の機会が増加した。 ○中学校教員による乗り入れ授業や、小学生が中学校を訪問しての授業や部活動体験が、中1ギャップ解消につながっている。 ○保幼小連携による交流行事を更に推進し、小1プロブレムの解消に引き続き努める。 ○中学校区ごとの中小連絡会議(学習・保健・生活等)が充実してきている。

4. 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
○地域との協力と連携を得てふるさと良さを地域の高揚が図られている。 ○教職員の地域行事への参加も増え、地域住民との交流が図られている。今後とも一層の連携が求められる。 ○学校により、取組に温度差が見られる。特に中学校では実施に難しい面が見られる。	B	C
○保幼小連携により、児童生徒や教職員の交流の機会が増加している。 ○交流行事や小中連絡会議(学習・保健・生活等)を充実し、積極的な情報交換を通して、体系的な指導を進める必要がある。	B	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】
 評価者の別 印
 こども育成課

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点	幼児教育 1 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る
-------	------------------------------------

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ・保健師、臨床心理士、家庭相談員の充実と巡回相談の実施
- ・保幼小の連携体制の充実
- ・幼児教育専門指導員の配置

3. 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>園と家庭が連携して、基本的な生活習慣の確立に努めます。</p> <p>年齢に応じた生活点検表、連絡帳の活用、個別相談の実施、そうあそびの日の取組みなどで、家庭での様子を把握し、連携を行う。園だよりの発行、食育便り、保健便り、基本的生活習慣の重要性の啓発に努める。</p> <p>個別相談を実施し、家庭における生活状況の把握に努める。</p>	B	<p>基本的な生活習慣づくりのためのチェック表を活用し、家庭への意識化を図れた。</p> <p>継続した取組みにより、保護者の理解を得られる面もあるが、保護者意識の多様化や考え方の相違により理解を得にくい面が増えている。</p>
2	<p>子どもへの理解を深め、乳幼児一人一人の特性や発達段階に応じた指導を工夫するとともに、発達に必要な環境の充実に努めます。</p> <p>指導計画や個人記録、経過記録を作成するなど、個々の発達に合わせた適切な援助ができる体制を構築する。</p> <p>家庭との連携を密にするなど、個々の発達を把握し適切な援助ができるための研修会への参加や園内研修の充実を図るなど、職員の高質向上に努める。</p> <p>すこやか相談・巡回相談の活用を積極的に進め、子どもの理解と支援を行う。</p> <p>定期的な園内研修を実施することにより、職員間の共通理解を深め、連携を深める。</p>	B	<p>定期的な園内研修(全職員研修・幼児研修・乳児研修)を開催するなど、職員全員で子どもを理解し、その対応を工夫することを目指した。時間差勤務のため全職員揃って研修を受けることができないが、午後の時間を活用するなど、時間の有効利用を常に考えて研修会を開催することを目指した。</p> <p>園から専門相談に繋がり、保護者も一緒に支援を考えたケースを押しやすることができている。</p>
3	<p>特別な支援が必要な子どもには、保護者の理解のもとで関係機関と連携を図るなど組織で対応するとともに、個別の指導計画に基づき、個に応じた適切な支援を行います。</p>	B	<p>巡回相談、5歳児発達相談などの相談体制整備され、連携強化により職員の得るところが大きいです。</p> <p>支援の連携がとりやすくなり、発達障害に関する研修を行うことができた。</p> <p>サポータープログラム等を有効に利用し、望ましい支援の方向が共通理解できるようううしたい。</p>

4. 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>保護者に基本的な生活習慣づくりの必要性を促し、生活習慣の意識化を図れた。</p> <p>保護者意識の多様化は進むが必要がある。</p>	B	<p>生活点検表、連絡帳の活用、個別相談の実施や園だよりの情報提供により、基本的生活習慣の確立に努力している。今後とも家庭と連携して基本的生活習慣の習得に努めていただきたい。併せて各家庭への啓発事業も積極的に実施していただきたい。</p>	B
<p>定期的な研修会を工夫をこらして開催し、職員全員で子ども理解とその対応を行っている。</p> <p>専門相談の活用も見られ、保護者支援にも繋がりがりつつある。</p>	B	<p>定期的な工夫をこらした研修会を開催し、職員全員が連携して子ども理解と保育対応も見られ、保護者支援にも繋がりがりつつある。今後とも子ども子育て環境の充実に努めていただきたい。</p>	B
<p>巡回相談、5歳児発達相談などの相談体制整備され、支援の連携強化が進んでいる。</p> <p>サポータープログラム等を有効に利用し、支援と共通理解をさらに進める必要がある。</p>	B	<p>幼児期から保護者の理解を得ながら、きめ細やかな相談体制が整備され、支援の連携強化が進んでいる。今後とも相談事業や支援体制の充実を図りたい。また、サポータープログラム等を有効に利用し、幼小・小・中学校と連携した支援が行えるよう努められたい。</p>	A

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

評価者の別	○【担当課 自己評価】
	○【教育委員会 評価】
こども育成課	○印【外部評価委員会評価】

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 幼児教育 1 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る
2 本年度の推進の重点を具体化した事業 ・保健師、臨床心理士、家庭相談員を配置し、相談体制の充実と巡回相談の実施 ・保幼小の連携体制の充実 ・幼児教育専門指導員の配置

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
保・幼・小連携を積極的に進め、乳幼児期から学童期への滑らかな接続を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 交流会や行事への参加、連絡会議等を通して子ども理解、保育教育内容の理解に努める。 幼児教育専門指導員を配置し、保・幼・小の連携強化を図ることにも支援を必要とする子どもへの就学支援を行う。 5歳児発達相談を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題が多様化しており、また家庭が抱える課題も深刻化してきている。今までの以上に密な連携が必要となっている。 5歳児発達相談に繋げる意識が高くなってきており、保護者の思いに寄り添いながらの支援を継続していく。

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題が多様化、深刻化している。今までの以上に保・幼・小と密な連携が必要である。 臨床心理士等専門職員との更なる連携が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼児センター、幼稚園、小学校との交流や学校行事への参加により、小学校との連携は図られている。しかし、家庭や個々の課題が多様化、深刻化しており、課題を抱えた幼児や家庭に対しては、保・幼・小が専門機関や専門職員との連携を密にし、スムーズな学童期につなげていただきたい。 	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別 印
 子育て成課

- 本年の教育推進の重点
 1. 本年の教育推進の重点
 2. 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎を育む
 幼児教育
- 本年の推進の重点を具体化した事業
 ・年齢に応じた指導計画に基づく保育(教育)の推進
 ・各種研修会の実施による自己研さんと資質・技術の向上
 ・運動遊びプログラムに基づく体力づくり

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	自然の中での遊びや動物とのふれあい、地域行事への参加を通して充実感や達成感を味わわせ、豊かな感性を培います。	A	・自然に恵まれた環境を生かし、日々の保育の中で楽しみながら自然との触れ合い機会を持っています。 ・地域の行事に積極的に参加することで、地域の中で育ち合う機会を大切にしたい。 ・力を合わせ協力することの大切さ、やり遂げた達成感を味わうことで、自己肯定感がつながり、人との関わりにより自信が持てるようになった。 ・年齢に応じた遊びを工夫する中で、人とのかわる力や言葉力が育ってきた。 ・活動への参加が子どもを積極的に見極めていきたい。
2	協同する経験(幼児同士が共通の目的をもち、工夫したり協力したりする経験)を通して、人とかわる力やことばの育成を図ります。	B	・運動会や発表会などの行事への取り組みの中で、一つの目的に向かおうと工夫したりすることでも、協力する経験や人とのかわりや育成に努める。 ・年齢に合わせた「テーマ遊び」や「ごっこ遊び」などを通して、子ども同士のかかわりを大切にします。
3	園同士の交流会や異年齢交流を積極的に進め、豊かな人間関係を築く態度を培います。	B	・幼児センター同士や幼稚園と保育所との交流会、幼稚園合同の遠足や運動会などを計画的に実施する。 ・夏祭り、運動会などの園内行事で異年齢交流を積極的に取り入れる。 ・小規模園では、日常的に異年齢のかかわりが持てるよう生活を工夫する。

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○自然に恵まれた環境を生かし、日々の保育の中で楽しみながら自然との触れ合い機会を持ち、地域行事に積極的に参加している。	A	○日々の保育の中で楽しみながら自然的・積極的に触れ合い機会が育まれるよう努力がされている。今後も年齢に応じた保育(教育)を推進されたい。	A
○年齢に応じた遊びを通じて、協力することの大切さ、やり遂げた達成感を味わわせるなど、工夫が凝らされた保育活動が展開されている。	B	○年齢に応じた遊びを通じて、協力することの大切さ、やり遂げた達成感を味わわせるなど、工夫が凝らされた保育活動が展開されている。今後子ども供たちが協同する機会を多く設けていただきたい。	B
○各事業、交流会が計画的に実施できている。幼児教育の重要性を認識し、今後も園で協力、連携しながら工夫をこらした取組を実施していただきたい。	B	○各事業、交流会が計画的に実施できている。幼児教育の重要性を認識し、今後も園で協力、連携しながら工夫をこらした取組を実施していただきたい。	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 印
 こども育成課

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点	幼児教育 3 子どもの心を安心して育てられる環境づくりを進める
2 本年度の推進の重点を具体化した事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の充実 ・要保護児童地域対策協議会の設置 ・安全安心な園運営 ・学童クラブの運営充実

3 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
3	虐待やいじめの早期発見と予防に努めるとともに、子どもの規範意識や人権感覚を高める取組を進めます。	B	虐待または疑わしい事例に関する情報が、組織改編によりやすくなつた。 ・虐待の発見またはそれを疑った時、要保護児童対策地域協議会を活用し、早期対応と関係機関の役割分担を行う。 ・要保護児童地域協議会による虐待予防の講演会開催により、支援者への啓発を行う。 ・コモセンセーション・ボディ・タッチの養成を行い、体罰や暴言に頼らない「しつけ」の方法を住民に伝え、虐待予防に努める。 ・母朝の例診、触診、表情などから子どもの様子を把握し、また保護者の育児不安を受けとめることのできることで予防、早期発見、通報に努める。
4	施設の安全点検や交通安全指導、避難訓練を計画的に行い、子どもを事故や犯罪、災害から守ります。	B	・年間計画により、施設・遊具の点検や避難訓練を実施するなど、施設の安全管理に努めるとともに職員や保護者の安全管理意識を高めた。所内研修会などで安心安全な施設の管理を確立する。 ・交通安全教室に参加し、職員・園児共に交通マナーの大切さを学ぶ。
5	幼保一元化の全市実現に向け引き続き取り組むとともに、認定こども園移行への取組を進めます。	B	・市内全域において幼保連携型認定こども園に移行するため、準備をすすめた。これにより、平成27年4月には公・私立あわせて9認定こども園、3保育所(園)、2幼稚園となる。 ・平成28年4月には、新たに2認定こども園が移行となり、幼稚園2園は閉園となる。
6	学童クラブの充実を図るなど、子どもの居場所づくりに努めます。	B	・市内全10学童クラブを、安心・安全な運営に努める。 ・学童クラブ指導員には、有資格者を基本に配置する。
7	新たに策定する「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、市の子育て施策の充実と計画的な推進に努めます。	B	・養父子ども・子育て会議を計5回開催し、「子ども・子育て支援事業計画(計画期間：平成27年度～平成31年度)」を策定する。

4 評価項目ごとの評価 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善 E 未実施)	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
	〇虐待または疑わしい事例に関する情報が、組織改編によりやすくなつた。子どもも同士のトラブルを見逃さず、話し合う機会をもつことでも人を思いやる気持ちや優しさを育んでいく。	B	〇組織改編により虐待や疑わしい事例に関する情報が共有化が図られ連携が取りやすくなつた。また、園の予防に努めていた。また、園の中で子ども同士の間でトラブルを見逃さず、話し合う機会をもつことでも人を思いやる気持ちや優しさを育んでいく。
	〇計画的に訓練等が実施され危機管理に努めている。	B	〇施設の安全点検や避難訓練等が計画的に実施され危機管理に努めている。幼児の安全確保と開かれた園運営との兼ね合いは難しいが安全対策の充実を図っていただきたい。
	〇校区単位に説明会を実施し、子ども・子育て支援新制度や市の方向性などについて説明し、保護者理解に努めている。	B	〇養父子ども・子育て支援制度や方向性を丁寧に説明する機会を設け、保護者の理解を得よう努めていただきたい。
	〇利用者は年々増加の傾向にある。施設の改修等が必要な施設があり、改善を図る必要がある。	B	〇学童クラブ利用者は年々増加の傾向にある。施設の老朽化により改修等が必要な施設がある。
	〇自己点検を行い、子ども・子育て会議において、進捗状況の確認、評価を実施している。	B	〇「子ども・子育て支援事業計画(計画期間：平成27年度～平成31年度)」に沿って着実に子育て支援事業を推進していただきたい。

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 印
 こども育成課

- 本年年度の教育推進の重点
 推進の重点 幼児教育
 4 保育所・幼児センター・幼稚園の機能を充実させ、子育て支援を進める
- 本年年度の推進の重点を具体化した事業
 ・一時預かり等保育事業の充実
 ・子育て情報の発信

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	園・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、子育て家庭の支援を行います。 ・園だよりや子育て情報誌などを配布し、子育ての悩みや行事の案内などを通して地域に開かれた園をめざすと同時に、子育ての核となるよう努める。 ・家庭や地域とのかわりを大切にすることで、スムーズに連携できるよう、地域の行事に積極的に参加する。 ・園が「親と子の育ちの場」となるよう、子育て相談の実施や保護者同士の交流を進める。 ・保育所等指導専門員を配置し、職員の高質向上のための指導助言・就労支援等を行う。	B	・在宅で子育てをしている保護者の情報交換に役立った。保護者の情報・地域力の低下を感じることもある。 ・行事に保護者が積極的に参加することにより、子育ての意識が深まった。 ・家庭での役割と園の役割を明確にする必要がある。
2	一次預かり保育・延長保育・体験保育を実施するなど、保育の充実を図ります。 ・地域のニーズや保護者の要望に寄り添いながら、体制を整え実施する。 ・一時預かり保育を市内全保育所・幼児センターで実施する。また、早朝・延長保育も全保育所・幼児センターで実施する。 一時預かり保育26年度利用者数 延べ375人(実利用人員61人) 早朝・延長保育26年度利用者数 延べ3,071人(実利用人数128人) ・保育所、幼児センターの機能を伝え、育児困難な家庭を積極的に支援する。	B	・各事業を実施することで、子育て家庭の育児支援の充実を図った。
3	公開保育や園舎開放などにより、教育(保育)に関する情報を子育て家庭に伝えます。 ・園便りやクラス便りなどで保育教育方針や子どもの姿を伝え、年問行事に組み込んだ保育参観や各行事で成長を披露しその感想や意見を聞かせてもらうなど、情報の発信と収集に努める。 ・未就園児家庭への園行事への参加や開放日の利用など、開かれた園づくりに努める。 ・オープン保育などを利用し、園の運営方針を話し機会を設ける。	B	・ホームページを活用し、園の様子や情報の発信に努めることのできた。 ・オープンスクールの期間を設け、自由に保育を体験してもらおうことができた。 ・大人の園では、園舎内で全員を受け入れることは困難なため、引き続き工夫していく。 ・参観時の視点やマナーを毎回伝えていくことにより、感想を述べる保護者が増えている。

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○子育て情報、各施設の行事案内などを通して、保護者に対して適切な情報提供と子育ての支援を行っている。園が「親と子の育ちの場」となるよう、保護者同士の交流を図っている。	B	○園は保護者に対して適切な情報提供と子育ての支援を行っている。また、園が中心となり保護者同士の交流も図られており、引き続き子育て家庭の支援に努めていきたい。	B
○一次預かり保育・延長保育・体験保育を実施するなど、育児支援の充実を図っている。今後も子育て支援の充実を図っていただきたい。	A	○一次預かり保育・延長保育・体験保育が実施され、育児支援の充実が図られている。今後も子育て支援の充実を図っていただきたい。	A
○ホームページの開設、オープンスクールの実施を通じて広く園の保育情報を提供している。	B	○ホームページの開設、オープンスクールの実施を通じて園の保育情報提供が行われている。今後も広報活動の充実を図っていただきたい。	B

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 印
 印

こども育成課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 4 保育所・幼児センター・幼稚園の機能を充実させ、子育て支援を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ・一時預かり等保育事業の充実
- ・子育て情報の発信

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4	園評価の実施により、保育の質の向上を図り保護者との信頼関係を築くことにも関心した園運営に努めます。	B	・園評価の結果をホームページで公開したりしながら、保育の質の向上に努めている。 ・保護者アンケートの実施などの取り組みが課題である。 ・保護者との信頼関係の構築と、園運営について話す機会を設け、理解を得ている。
5	専門研修に積極的に取り組み関係機関が主催する研修会に参加するなど、職員の実践的指導力を高めるとともに、職員の質の向上に努めます。また、公開保育や保護者参観の機会をとらえて指導方法等に関する情報交換を行うなど、教育(保育)課程の充実に努めます。	B	・積極的に研修に参加するとともに、市内の職員同士が共同研究をすることを通して実践的指導力を高めることができた。 ・公開保育を受けることで、保育の質の向上につながった。 ・厳しい時間の中で園内研修の時間を捻出している。さらさら研修の内容が充実するよう努力したい。

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
・園評価結果のホームページ公開、P.T.A総会での公表を通じて園運営に対しては保護者の理解と信頼関係を築いている。引き続き懇談会やアンケート等を通じて保護者の意向を把握し保育に生かしていく必要がある。	C	○園評価結果のホームページ公開やP.T.A総会等を通じて園運営に對する保護者の理解と信頼関係が築かれている。引き続き、保護者の意向を把握し教育(保育)に生かしていく必要がある。	C
○積極的に研修に参加し保育士の資質や職員同士の共同研究を通して指導力を高めている。厳しい時間の中で園内研修の時間を捻出している。	B	○各種関係機関が開催する研修会に積極的に参加し、教職員の実践的指導力と資質の向上に努力している。今後、様々な機会を捉え職員への指導力と資質の向上に研修を促していきたい。	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調書

評価者の別	○印
【担当課 自己評価】	○
【教育委員会 評価】	○
【外部評価委員会評価】	○

1 本年度の教育推進の重点

社会教育 1 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育委員会の開催 ● 施設の管理・運営 ● 成人式の挙行
--

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
社会教育委員会や社会教育関係団体と連携し、社会教育行政や施設運営、生涯学習の推進に市民のニーズが反映されるよう努めます。	① 社会教育委員会の開催 社会教育委員会を開催する。総会・研修会等に参加し、委員としての意識と資質を高める。 ② 記念館の管理・運営 山田風太郎記念館・上垣守国養蚕記念館は指定管理委託、大庄屋記念館は委託により、施設を公開する。 ③ 養父市成人式の開催 平成27年1月11日(日)、平成27年養父市成人式を開催する。	C	① 委員12名、年2回開催。研修会等に参加し、他地域の活動状況や社会教育委員市民のニーズを的確に把握するため、社会教育活動の視察を行う。 ② 各施設ではイベントなどを開催し、魅力的な施設となるよう努力している。 ③ 新成人による成人式実行委員会を組織し、市と新成人が協同して成人式を行った。新成人280人が出席し、厳粛な中にも和やかな雰囲気での式典を開催できた。

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
	① 社会教育委員会を有効に開催する必要がある。 ② それぞれの施設が、企画展やイベントを実施し、入館者の誘致に努めている。今後とも各施設の特徴を生かした催しを行い、入館者の増加に努める。 ③ 新成人による司会進行、誓いの言葉、アトラクション等を通じて新成人としての自覚や決意がよく伝わった。	B	① 各公民館事業、活動が市民生活部所管となっており、若干違和感を感じる。社会教育課が所管する各施設については、入館者の増加に向けた取り組みが行われている。今後、施設の特徴を生かし入館者の増加に努めていただきたい。成人式については郷土愛が醸成される催しとなっている。今後も新成人が主体の催しとして続けられたい。	B

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 〇印
 〇印

社会教育課

1 本年度の教育推進の重点

社会教育課 推進の重点 2 ふるさとの歴史や文化遺産を継承し、その保存と活用を進める
--

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

●史跡八木城跡整備計画の検討 ●重要伝統的建造物群保存地区の調査

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
1	市内にある文化財を調査・保存し、その魅力を発信します。埋蔵文化財は開発との調整を図りながら調査を進めます。原始・古代の昔から受け継がれてきた文化財の保護・活用に努めます。	①文化財保護審議会を開催する。 ②池田草庵生誕200年記念事業を宿南地区自治協議会・八鹿公民館等と連携して開催する。 ③小・中学校の「ふるさと学習」などを支援し、文化財や大庄屋記念館の解説を行う。 ④埋蔵文化財と開発事業を調整する。 ⑤東北震災復興支援(埋蔵文化財調査)のため、岩手県大槌町に職員1名を派遣する。	B	①委員8名で年2回開催。文化財修理現場を視察。 ②池田草庵を顕彰する「そうあん祭り」や講演会を開催。 ③「渡辺うめ入形展ふるさとと宿南」を宿南ふれあい倶楽部で開催し、4600人を超える見学者が来場し、大変盛り上がりがあった。 ④小学校の課外授業で大庄屋記念館の利用などを継続する。 ⑤震災復興の現場に職員を派遣し、復興支援等貴重な経験を得た。	○市内に在る貴重な文化財の有効活用と展示紹介する方策を考えていただいた。池田草庵生誕200年記念事業を関係地区と協働して実施したが、各地域で先人の生き方を学ぶ取組を進めていただいた。	A	B
2	市民の手により継承されている伝統芸能や伝統文化の保存団体、および文化財の保護団体の活動を支援します。市内にある国・県・市の指定文化財等の保存・修復の支援に努めます。	①伝統芸能継承団体や指定文化財保護団体などの活動支援を行う。 ②養父市が所有する国指定文化財の史跡や天然記念物などを適切に管理する。 ③文化財修理を支援する。 ④史跡八木城跡の整備に向け、整備計画を検討する。	B	①市民団体と連携し、市民団体の活動を支援している。また、国指定文化財「梅見の大ザクラ」「箕谷古墳群」などを管理している。文化財保護活動や市内文化財は市の観光にも資するため、タイムリーな情報発信が必要である。	○市民団体の文化財保護活動を支援している。また、「梅見の大ザクラ」は地元保存会の保護活動を支援している。「箕谷古墳群」は市教委で管理している。その他市民団体の文化財保護活動を支援している。市内文化財は市の貴重な観光資源であるため、その保護と支援、タイムリーな情報発信に努めていただきたい。	A	B
3	市内に残る近代化遺産、伝統的建造物などを調査し、養父市らしい歴史と文化に根ざした地域づくりなどの活動を支援します。	①重要伝統的建造物群保存地区の推進のため、大屋町大杉地区の調査を実施する。	C	○伝統的建造物群は観光資源としての価値もあるので、市民と連携した有効な情報発信が必要である。	C	B	

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課自己評価】
 【教育委員会評価】
 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 〇印

社会教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点
 社会教育
 3 家庭・地域・学校が連携して、豊かな心を育む青少年の健全育成を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 学校支援地域本部事業の推進・放課後子ども教室の開設
- P.T.A.および子ども会活動の支援
- 人権文化を育む体験学習講座の開設

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1 家庭・地域・学校の連携のもと、地域資源を活用した体験活動の機会を提供し、青少年が健全に育つ環境づくりを進め、ふるさとへの愛着と帰属意識を育てます。	①チャレンジキッズ等との連携 公民館事業「チャレンジキッズ」、市社会福祉協議会事業「放課後プレーパーク」と連携し、子どもたちが体験活動を提供する。 ②「ふるさと」をテーマに、「子ども囀鳴フォーラムin養父」を開催する。	B	①子どもたちが様々な活動の場を提供できた。放課後子ども教室ボランティアスタッフも参加し、事業を支援する体制を作った。 ②宿南小と建屋小の創作劇、八咫青溪中の発表により、池田厚庵を生かしたふるさとの先人教育を、市内内外の人に知ってもらったことができた。参加者447人。
2 地域のボランティアなどの参加を得て、「放課後子ども教室」や「放課後子ども会」等を実施し、地域全体で学校支援、子どもたちの居場所確保に努め、地域の教育力を高めよう。	①学校支援地域本部事業の推進 学校が要望するボランティアを調整した。 ②放課後子ども教室の開設 放課後や休日に体験活動を提供するため、自治協議会・小学校などを会場に開催する。	B	①各学校で、地域ボランティアの協力を得ながら円滑に事業が行われてきた。 ②自治協議会や市社会福祉協議会と連携し、市内8小学校区で8教室を開設した。
3 P.T.A.や子ども会活動等を支援し子ども同士や親子、地域の交流を図ります。	①養父市P.T.A.連絡協議会の活動支援 8月24日(日)P.T.A.活動研修会・地域フォーラムを開催する。スマホ対策をテーマとした。 ②養父市子ども会育成連絡協議会の活動支援 11月27日(日)第11回子ども会トッポンボール大会を開催する。	B	①保護者の家庭教育やP.T.A.活動に対する意識を高めることができた。社会問題として子ども会スマホ対策を学んだ。参加者290人。 ②大会を通じて、市内児童および親子の交流を図ることができた。45チーム、参加者521人。
4 一人一人を大切に、支え合う社会づくりを推進するため、子どもたちが命の尊さや思いやりの心を学ぶ機会を提供します。	①子ども命のひろばの開催 人権講演会子ども会を開催する。 ②人権文化を育む体験学習講座の開設 小学生3学級・中学生2学級を開催する。	C	①親子で愛と友情、命の大切さについて考える機会を提供した。参加者83人。 ②小・中学校や地域の指導者の協力を得て、地域の歴史や文化、人権等を学ぶ活動を実施した。

評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)	達成状況	達成状況
自己点検・評価委員会による評価	A	A
外部評価委員会による評価	A	B
外部評価委員会による評価	A	A
外部評価委員会による評価	C	C

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 「元気な養父市～ひとりスポーツで健康づくり～」を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通してスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 正しいラジオ体操推進事業
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)

評価項目	取組内容	担当課評価・改善の方策
<p>1 スポーツがもたらす健康や生きがい、交流づくり等への効果や再認識し、特に成人が週1回以上スポーツ活動に親しむ機会をもつなど、子供から高齢者まで生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に取り組めます。</p>	<p>■スポーツイベントの開催</p> <p>1) 第4回養父市ウォークラリー大会 開催日 平成26年5月25日(日) 場 所 八鹿地域(養父市役所周辺) 参加者 約150人規模</p> <p>2) 第5回養父市スポーツフェスティバル 開催日 平成26年7月21日～8月30日 場 所 つるぎが丘公園 他市内体育施設 種 目 ソフトボール他 全16種目 参加者 約1,300人規模</p> <p>3) 第23回養父市イヌワジ駅伝大会 開催日 平成26年9月23日(秋分の日) 場 所 関宮小・中学校周辺農道コース 部 門 一般、中学生、小学生 各男/女 参加者 130チーム規模</p> <p>4) 第8回養父市ロードレース 開催日 平成26年10月18日(体育の日) 場 所 全天候運動場～小佐方面 部 門 ハーフマラソン他 全19部門 参加者 1,000人規模</p> <p>5) V・チャレンジリーグ養父大会 開催日 平成27年1月24日・25日 場 所 八鹿総合体育館 来場者 1,000人規模</p>	<p>■スポーツイベントの開催</p> <p>1) 市民ニーズの多いウォーキングをグループコミュニケーションの場として実施した。</p> <p>2) 閉会式でスポーツ賞の表彰を行った。小学生から高齢者まで幅広い年齢層による夏のスポーツイベントとして、市民に定着しつつある。</p> <p>3) 過去最多のチームを迎え開催した。一般成人の参加拡大が課題。</p> <p>4) 台風の襲来により、前日に中止の判断をした。日程や大会を賑わいの分野にも着目して見直すことにより、今後も参加者の拡大が見込まれる。</p> <p>5) 男子バレーボールプロ2部リーグの試合を誘致した。子供から高齢者まで多くの来場があり、プロの試合を観戦することで、スポーツに親しむ機会を提供できた。</p>

生涯スポーツセンター ○印

評価者の別
 担当課 自己評価
 教育委員会 評価
 外部評価委員会 評価

4 評価項目ごとの評価 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)

達成状況	達成状況
<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>■スポーツイベントの開催</p> <p>○多様なスポーツイベント・スポーツプログラムを各種団体と協働、連携して提供している。養父市ウォークラリー大会、養父市スポーツフェスティバル、養父市イヌワジ駅伝大会、養父市ロードレース等は多くの市民が参加できるスポーツイベントとして定着してきた。今後も参加者が増えるよう大会期日設定、周知方法や種目内容を工夫する必要がある。</p> <p>○市制10周年記念事業として実施したバレーボールV・チャレンジリーグ養父大会は冬季にも関わらず多くの市民が観戦しプロスポーツの高度な技術に触れることができた。</p>	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○様々なスポーツイベントや教室を関係団体と協働、連携した実施ができていいる。正しいラジオ体操の普及と推進に、ケーブルテレビを利用して積極的に取り組んでいる。養父市民がライフステージに応じてつくりだすよう関係機関、団体と連携した事業展開に努めていただきたい。</p>

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 「元氣な養父市〜ひとりとリススポーツで健康づくり〜」を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通したスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 正しいラジオリモーター推進事業
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)

評価項目	取組内容	担当課・改善の方策
市民が生涯にわたってそれぞれの年齢や体力、目的などに応じて、いつでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努めます。	<p>■スポーツ施設の維持管理と運営</p> <p>1) 指定管理施設の管理運営 指定管理施設が効果的・効率的に市民に活用されるよう、モニタリングや運営協議会を定期的に実施するとともに、必要な改修を行い施設の適正管理に努める。</p> <p>①おおやスポーツセンター等施設 管理者 代表 全但バス(株) 期間 平成25〜27年度(2期目) 概要 自主事業や積極的なPR活動により、地域に密着した施設の管理運営に努める。</p> <p>②養父市都市公園(つぎが丘公園)施設 管理者 代表 全但バス(株) 期間 平成26〜28年度(3年間) 概要 温水プール、健康増進施設等を利用する市民の健康づくり活動への支援と、公園内体育施設の維持管理に努める。</p> <p>2) 全天候運動場施設の管理運営 概要 天候に左右されない運動施設としての特性を活かし、年間を通じて安全・安心にスポーツ・交流活動ができるよう、適切な施設維持と管理運営に努めている。</p>	<p>■スポーツ施設の維持管理と運営</p> <p>○モニタリングも行われ、各施設も適正な管理運営が行われている。</p> <p>①積極的なPR活動や地域に密着したスポーツプログラムの提供が行われている。関係団体の施設評価では高評価を得た。</p> <p>②リニューアル期間があり、利用利用者数の減少を招いた。積極的なPR活動と魅力あるスポーツプログラムの提供を図り会員の増加を図る必要がある。</p>

4 評価項目ごとの評価 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善 E未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況
<p>■スポーツ施設の維持管理と運営</p> <p>○モニタリングも行われ、各施設も適正な管理運営が行われている。</p> <p>①積極的なPR活動や地域に密着したスポーツプログラムの提供が行われている。関係団体の施設評価では高評価を得た。</p> <p>②リニューアル期間があり、利用利用者数の減少を招いた。積極的なPR活動と魅力あるスポーツプログラムの提供を図り会員の増加を図る必要がある。</p>	<p>○指定管理施設についてはスポーツプログラム等の工夫がみられ適正な管理運営に努力している。全天候運動施設について予約制度等も改善され、利用しやすい施設運営に努めている。今後も市民が利用しやすい施設改善に努めていく。</p>

外部評価委員会による評価

外部評価委員会による評価	達成状況
<p>○指定管理施設についてはスポーツプログラム等の工夫がみられ適正な管理運営に努力している。全天候運動施設について予約制度等も改善され、利用しやすい施設運営に努めている。今後も市民が利用しやすい施設改善に努めていく。</p>	<p>○指定管理施設についてはスポーツプログラム等の工夫がみられ適正な管理運営に努力している。全天候運動施設について予約制度等も改善され、利用しやすい施設運営に努めている。今後も市民が利用しやすい施設改善に努めていく。</p>

評価者の別

○ 担当課 自己評価

○ 教育委員会 評価

○ 外部評価委員会 評価

生涯スポーツセンター

平成27年度(平成26年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 「元気な養父市～ひとりとスポーツで健康づくり～」を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通してスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 正しいラジオ体操推進事業
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
3	<p>■スポーツ団体への活動支援</p> <p>1) 養父市体育協会(全20種目、3,400人)の活動への補助と事業連携により会の活性化を支援する。</p> <p>2) スポーツクラブ21市内小学校区に設置された全18クラブの基金管理や交流活動への支援により、会の適正な運営を継続させる。</p> <p>■スポーツ顕彰制度</p> <p>1) 養父市スポーツ顕彰制度</p> <p>2) 養父市スポーツ振興に功績のあった者(団体)及び優秀な成績を収めた者(団体)に対する表彰を行う。</p> <p>■スポーツ傷害保険助成制度(新設)</p> <p>・保護者、指導者、子供達が安全で安心してスポーツ活動に取り組みやすいよう、スポーツ保険の加入促進を図る。</p> <p>対象 市内小学生 内容 1人当たり1,450円/年額を助成</p>	A	<p>■スポーツ団体への活動支援</p> <p>1) 体育協会事務局として、加盟団体の活動への支援を行うとともに、連携した事業推進に努めた。</p> <p>2) 連絡協議会主催によるグラウンド・ゴルフ大会を開催し、市内スポーツクラブの交流を図ることができた。</p> <p>■スポーツ顕彰制度</p> <p>1) 養父市スポーツフェスティバル開会式等で表彰を行い、多くの市民に表彰制度の周知を図ることができた。</p> <p>・優秀者表彰 個人3名、団体1チーム</p> <p>■スポーツ傷害保険助成制度(新設)</p> <p>・379人の助成を行っており、高水準の補償制度に加入出来ることから、関係者等から好評を得ている。今後も継続する。</p>
4	<p>市民や地域との連携・協働によるスポーツ活動の振興を図るとともに、保健・医療や生涯学習等の行政関係機関との積極的な連携により、スポーツ振興策を効果的に展開します。</p>	C	<p>■健康・スポーツ活動の推進体制の整備</p> <p>1) 養父市スポーツ推進協議会等の開催について、どこでも、誰でもが実践できる生涯スポーツの普及と、市民の健康増進による元気な地域社会を目指し、市民の協働で推進するために設置する。</p> <p>2) 関係機関との事業連携</p> <p>市内スポーツ団体や介護サポーター、市健康課、高齢福祉室等との連携事業として「正しいラジオ体操」の普及、推進事業を展開する。</p>

【担当課自己評価】
 〇
 〇
 〇

【教育委員会 評価】
 〇
 〇
 〇

【外部評価委員会評価】
 〇
 〇
 〇

評価者の別
 〇
 〇
 〇

生涯スポーツセンター
 〇
 〇
 〇

4 評価項目ごとの評価 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 E:未実施)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	達成状況
<p>■スポーツ団体への活動支援</p> <p>○体育協会事務局として、体育協会所属団体の実施するスポーツ事業に対して的確な指導、助言と支援を行っている。また他のスポーツ団体の育成に努めている。また他のスポーツ団体に對しても支援ができて</p> <p>■スポーツ顕彰制度</p> <p>○受賞者のみならず地域や関係者の励みとなっている。</p> <p>■スポーツ傷害保険助成制度</p> <p>○活動中の小学生の事故に對する傷害保険であり、一層の周知を図ること。</p>	A	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○養父市体育協会、スポーツクラブ21等各種スポーツ団体に対して的確な指導助言と支援を行い各団体の育成に努めている。今後各団体の主体的なスポーツ活動の支援に努めていただきたい。</p>
<p>■健康・スポーツ活動の推進体制の整備</p> <p>○スポーツ推進協議会を定期的に開催し、スポーツ・健康づくり運動に對する活発で多様な意見を聴取し、スポーツ振興に生かす必要がある。</p> <p>○関係行政機関やスポーツ関係団体との連携をより一層図り、「ひとりと1スポーツで健康づくり」を推進する必要がある。当面、誰にも親しみのあるラジオ体操の普及を引き続き推進すること。</p>	C	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○スポーツ推進協議会を有効に活用して市民のニーズを把握し市民スポーツの振興に努めていただきたい。また、関係行政機関やスポーツ関係団体と連携して健康・体力づくり運動を展開し、スポーツ文化の醸成に努めていただきたい。</p>